

## 西播支部

西播支部では、21か所で「まちの保健室」活動を実施しています。登録するボランティア数は、362名（平成30年3月末現在）となっています。子育て支援は、5か所での活動が実践されています。（子育て支援単独箇所は2か所）。保健指導に関しては、どの開設場所でもリピーターが多くみられ、健康サポーターとして定着しています。また、出前隊として、老人会や地域の催しでの開設も増えています。

平成28年度はモデル事業として取り組み、「認知症対応型まちの保健室」は2年目を迎えています。先駆的な取組みでしたが、行政との連携・ボランティア同士の連携・開催させて頂いている施設との連携をとおして、地域包括ケアシステムという大きな輪のなかで一翼を担っていることを実感しています。1年間の四季をとおして「まちの保健室」の活動の足あとを紹介します。

### —春—

看護の日のイベントでの活躍



### —夏—

暑さも吹き飛ばす拠点活動



一緒に、活動しませんか？

### —秋—

学びの秋の研修会



### —冬—

1年間成果発表と次年度に向けて計画



## 平成30年度西播支部「まちの保健室」の活動の拡大として新しい取組み

平成30年度に向けて、新しい動きもご紹介しておきます。

- 平成29年11月から、姫路市内の城内図書館で出前隊として活動し、今後拠点へと考えています。
- 平成30年3月から、姫路獨協大学でもまずは出前隊として活動し拠点へと考えています。



- たつの市では、平成17年から「コミュニティカフェ扉」が拠点として活動していましたが閉設となりました。平成29年度に同じ地域で「赤とんぼ広場一番街」という名称の拠点ができました。薬剤師と行政、「まちの保健室」の3職種の多職種連携でパワーアップした活動を提供しています。それぞれの特性を生かした取り組みとなっており、来所者からは好評を得ています。

## 西播支部における認知症対応型まちの保健室

西播支部の売りとして「認知症対応型まちの保健室」の活動紹介をします。助っ人として、認知症看護のスペシャリストの支援もあります。健康相談の傍らで1対1の相談のできるスペースを設け、チェック表による認知症のレベルの確認後、生活の中で困っていることに焦点を当てて細やかに支援していきます。

「物忘れがひどくて、大丈夫かな？」とやってこられる方がほとんどですが、ボランティアナースの対応で安心して帰って行かれます。

この活動も2年を迎えようとしていますが、最初からのリピーター方がおられ「また、来月な」と帰って行かれます。最初の1回目より毎回欠かさず訪ねてくれるリピーターが3名います。いつもいつも、応援メッセージをいただいています。



## 平成29年度西播支部「まちの保健室」のパワフルメンバーからメッセージ

**施設内の看護では経験できない、看護師としての自分の力を発揮できますよ！**

**年齢や経験を超越し、気の合う仲間づくりができます！**

## ボランティアの声

活動を始めた頃は、来場者さんにどう接していいのかわからず測定結果を伝えることしかできなかったのですが、一緒に活動している先輩の姿を見て対応の仕方などが学べ、またそのことが自施設での仕事に活かすことができました。現在は自施設でボランティアを育成する役割も担っていますが、「何かをしなくては」ではなく「できることをする」姿勢で活動してほしいと伝えています。今後も活動の楽しさや自分の成長に繋がることを伝えて後輩育成に少しでも貢献できたらと思います。（姫路聖マリア病院 中塚 真弓）

ボランティア活動を行う事により、地域の方々との関わりの中で看護の原点に戻る事ができました。出前隊活動に参加し、来場者から「また、来年も来てね」と、言われることでモチベーションが上がります。これからも活動を続けボランティア仲間を増やしていきたいと思っています。（ツカザキ病院 那波 洋子）

